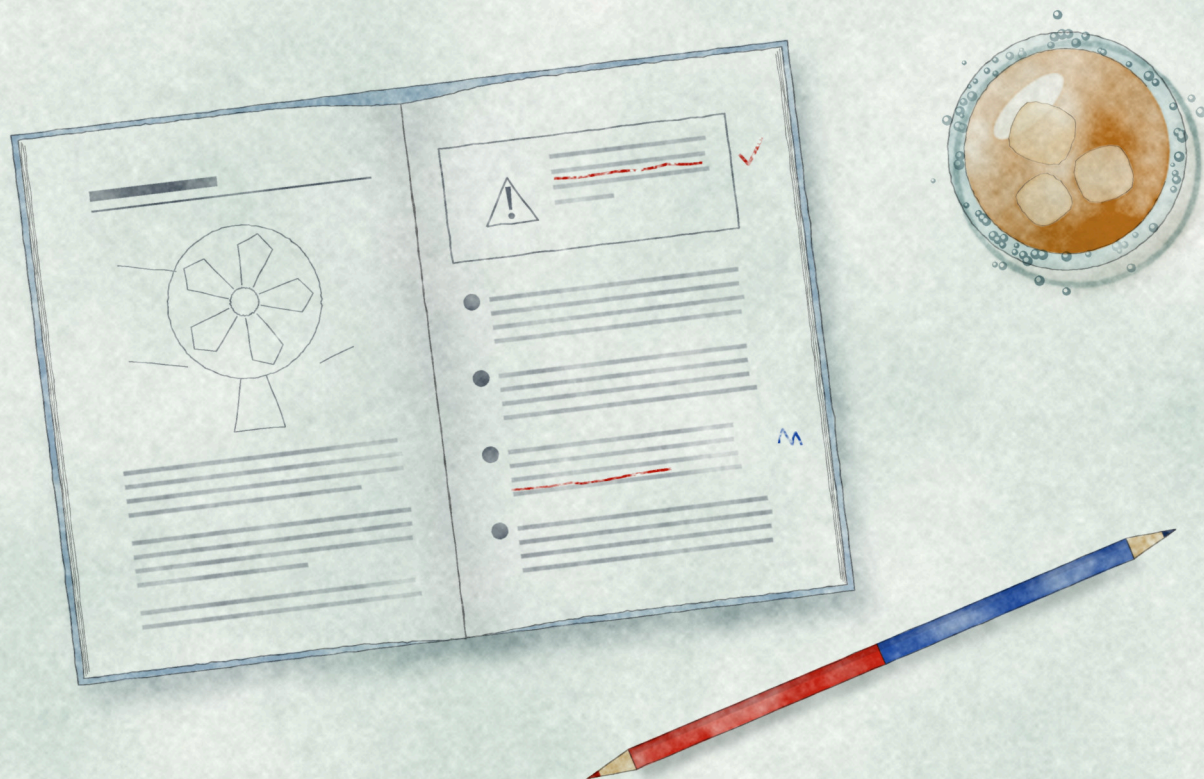


つづり

Vol.86

2012 SUMMER



特集 取扱説明書の言葉

株式会社トゥトゥリガチ言語解決社 広報誌

表紙：夏の翻訳部

言葉の現場から 第12回



取扱説明書の「注意」

翻訳部 新井 美咲

取扱説明書の安全表示には、「危険」「警告」「注意」という三つの段階があります。どれも似た言葉に見えますが、読む人に求める行動の重さが、それぞれ違います。訳語を一段取り違えるだけで、読む人の行動が変わってしまうことがあります。

入社したばかりのころ、私は「注意」と訳すべきところを「お願い」と訳し、先輩に呼ばれました。「お願いされたら、人は守らなくてもいいと思う。注意されたら、少しだけ考える」。そのとき、言葉には重さがあるのだと知りました。

いまでは、一行の注意書きに半日かかることもあります。言葉の重さを量るのも、翻訳者の仕事です。

いつか、デュッセルドルフ事務所で、英語の説明書を日本語に訳すのではなく、日本語の説明書の心をドイツ語で伝える仕事をしてみたいと思っています。